

No. 1610

明治・大正貴重公文書展

—東京—

10月18日から24日まで東京・千代田区北の丸公園にある国立公文書館で「明治・大正貴重公文書展」が開かれました。明治元年から60年を一周期とする干支を基準にすると昨昭和63年が120年目で二巡り目にあたります。

そこで一巡り目の明治・大正時代の貴重公文書を通してその時代の一端を振り返ってみようという主旨。

会場には王政復古の大号令から明治政府による廃藩置県、学制の制定、地租改正、などの諸改革の貴重な資料を見ることができます。

また明治15年、自民党総裁板垣退助が暴漢に襲われ負傷した際の探偵上申書や大日本帝国憲法の原本から日清日露戦争、大正12年の関東大震災までの貴重な文書100余点が展示され、我が国の近代国家としての基礎を考えるのに有意義な催しとなったようです。

立大23年ぶり優勝

—東京六大学野球—

東京六大学秋のリーグ戦、23年ぶりに優勝を狙う立教大学が10月21日東京大学と対戦。

一塁側は3万人を越える大応援団で満員、応援合戦でも東大を圧倒します。

ゲームも立大が一回裏無死走者で2、3塁から四番黒須のレフト前タイムリーで2点を先取。

また外野フライで3塁ランナーがホームを踏み、3点目と東大をつきはなします。

守っては今期4勝と好調のエース平田が東大を2塁打一本に押える好投。7:0で迎えた9回表、東大最後の打者斉藤をショートライナーに討ちとりゲームセット。

ピッチャーマウンドで23年ぶり10度目の優勝の喜びを爆発させる選手たち。

試合後のあいさつの後、次の週の閉会式まで待ち切れず、横川監督、原川部長、黒須主将と胴上げがつづきます。

さらに喜びのナインは外野スタンドまでビクトリーラン。スタンドの学生たちと共に23年ぶりの優勝を体一杯に表していました。翌22日の2回戦も東大を取り、立大は完全優勝を決めました。